

●平成11年度事業計画<平成12年1月1日から3月31日まで>

1. 獲得目標

設立準備会段階からの活動を引き継ぎ、公益法人としての事業への定着を図る年度として、基礎的な調査研究活動と連携しつつ、水島地域における環境再生活動を推進する上で必要な人的資源や地域資源（自然環境や歴史・文化）の掘り起こしを進める。

2. 活動内容

(1) 環境再生活動の推進

①八間川をシンボルとした環境再生活動

地球環境基金の助成で設立準備会段階から取り組んできた活動を受け継ぎ、成果をまとめる。また、引き続き周辺環境や地域資源の市民参加型の調査を進めつつ、再生計画作成のためのワークショップ等を開催し、地域関係者に対する提案書を作成する。

②まちおこし“こだわり衆”の組織

商店街の若手経営者など、まちおこしにこだわって活動する人材の育成と交流を進めるため学習会や懇談会を開催する。

③水島地域環境再生計画の検討

上記実践活動や(3)の調査研究活動等の成果を総合化し、環境再生の目標像と活動指針を提示するマスタープランづくりを、地域関係者や専門家の協力により進めていく。

(2) 公害被害に係る体験や教訓を活かす活動

①公害裁判資料の保存・整理方策の検討

設立準備会段階からの取り組みを引き続き、倉敷公害裁判における原告患者や地域の公害反対運動に関する資料の保存・整理を進めるとともに、第1次資料目録の作成をめざした調査組織をたちあげる。

②地域の公害体験“語り部”活動

設立準備会段階で立ち上げた公害病患者から公害被害の体験などを聞きとり、記録化する活動を引き継ぎ、この映像記録についての第1次成果を完成させる。また、この映像記録を活用した環境学習の展開方策について検討する。

③コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

全国公害患者の会連合会が実施している公害経験に関する途上国の環境NGOとの交流事業（地球環境基金助成）に協力して、今年度はフィリピンのコンビナート地区の公害被害者等を招聘して水島地域における公害対策の経験に関する情報提供を行う。

④地球環境市民大学校への協力

あおぞら財団が環境事業団の委託により岡山県下で実施する地球環境市民大学校について、現地での運営に協力する。また、大学校への参画を通じて、瀬戸内海でのコンビナート公害の経験を市民に広げることに努める。

(3) 調査研究の推進

①コンビナート周辺の環境改善に関する調査研究

設立準備会段階から取り組んできた数次のシンポジウム等の成果を踏まえて、コンビナート地域の環境再生のあり方について、学際的かつ市民参加型の調査研究を進める。今年度は、緩衝緑地に着目して調査し、地域緑化の方向性について検討する。

②瀬戸内海の環境再生に関する調査研究

コンビナート開発によって疲弊した瀬戸内海の環境再生について学際的かつ市民参加型の調査研究を進める。今年度は、海底ゴミに着目して、陸域からの環境負荷が海域に与えている影響等を把握し、循環型社会の形成への課題を探る。